「こめぬか」の使用について２０１７／８／１７（有機栽培ﾋﾞｯｸﾘ教室より）

１，温暖時期にコメヌカをまいて耕すと雑草は枯れコメヌカが分解するまで雑草は抑制される。　又，追肥にもなる。
量は１ａ当たり５０ｋｇ目安、１００ｋｇ以上振れば効果てきめんである。

２，健康な野菜作りには速効性の魚粉、遅効性コメヌカ、モミガラ堆肥の有機栽培をする

３、コメヌカの主成分はデンプンでチッソ，リン酸、カリで成分比は２－４－２の山形肥料で使用のコツは化成肥料のつもりで生のまま、すき込んで種まき定植すると必ず失敗する。（冬に向かうﾀﾏﾈｷﾞ、ニンニクは例外である。）
高温の時期にまいて分解させないと安心して使えない。

４，夏は種まきの一月以上まえに余肥として散布し何度かロータリかければ大根、ニンジンはコメヌカだけで育つ。（余肥とは元肥より前に施肥）
量は野菜種別、品種，畑の土質、栽培履歴で違うので今までの自分の経験できめる。

５，カボチヤは定植後に、コメヌカを、うね間に大量にふりロータリをかけて置けばよい１ａに５０～１００ｋｇの量が目安

６，間秋カボチヤ７月中旬種まき、コメヌカは上記とおり、親ツルが伸びたら摘心して耕しシキワラをする。
防草マットでもよい。着果は９月初旬、収穫は１０月になる。

７，ナスは花の咲く頃にウネ間に１ａ当たり１００ｋｇ以上散布しすきこむ。

８、キウリ定植後コメヌカを、うね間１０ｍ当たり１０～１５ｋｇすきこむと収穫最盛期の良い肥料になる。

９，サツマイモは前作になにも作らない畑ならコメヌカを１ａに１５ｋｇで前作になにか作ってあれば肥料はいらない。基本的には連作をさける。
定植後に二日ほど日中二回ほど水をかければ大体活着する。

１０，里芋は１ａ当たり２５０ｋｇと大量にコメヌカをやっても動じないカンナ並である

１１，タマネギの主要な肥料成分はコメヌカ１ａ当たり５０～８０ｋｇほど必要。すき込んだら黒マルチを張り虫害を防ぐ
東西ウネだと、どうゆうわけか南側の苗が枯れるので南北ウネにする。

１２，ネギ元肥はモミガラ堆肥のみ、活着してから１ｍあたり１ｋｇ振って耕す三週間位でコメヌカが分解したら土を株元によせる。
これらの作業を繰り返す。